

2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月31日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東
コード番号 4228 URL <https://www.sekisuikasei.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
コーポレート戦略本部長
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月4日
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（証券会社アナリスト、機関投資家ファンドマネージャー向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2024年3月期第2四半期	64,996	6.7	338	—	1,168	—	459	—
2023年3月期第2四半期	60,917	2.5	△312	—	73	△90.2	△345	—

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 △1,530百万円（－％） 2023年3月期第2四半期 1,125百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	10.15	—
2023年3月期第2四半期	△7.65	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2024年3月期第2四半期	147,280	56,568	37.9
2023年3月期	145,175	58,464	39.8

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 55,825百万円 2023年3月期 57,723百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	3.00	—	9.00	12.00
2024年3月期	—	3.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	9.00	12.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	130,000	4.3	1,300	63.9	1,700	141.3	550	21.5	12.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	46,988,109株	2023年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,614,133株	2023年3月期	1,714,425株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	45,316,666株	2023年3月期2Q	45,228,750株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 中間配当に関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の世界経済におきましては、新型コロナウイルス感染症(以下、本感染症)に対する行動制限の緩和に伴い、個人消費を中心に回復への兆しが見える一方、ウクライナ情勢の長期化や資源価格の高騰などによるインフレ圧力の強まり、また中国景気の減速懸念等により、先行き不透明な状況が続いております。自動車産業においては、半導体をはじめとした自動車部品サプライチェーンの供給回復により、自動車生産は地域やメーカーによって生産活動にばらつきはあるものの全般的に回復基調にあります。エレクトロニクス関連においては、テレビ、モニター用途の需要が回復傾向にあります。一方、日本経済は、本感染症の第5類への移行や入国制限の緩和により、社会経済活動が正常化し、緩やかな回復傾向がみられるものの、資源価格の高騰や円安の影響などにより、不透明感を払拭できない状況が継続しております。また、温室効果ガス排出量削減や気候変動問題など環境課題への対応は、重要性を増しております。

日本の発泡プラスチック業界におきましては、食品容器関連の需要は、人流の増加がありましたが、物価上昇などの影響もあり、内中食関連向けの需要は落ち着きをみせております。一方、各種部材や搬送資材・梱包材は、需要が回復傾向にあります。

このような経営環境のなか、当社グループは、前年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Spiral-up 2024」の3つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでおります。『収益体質の強化』においては、経営資源の選択と集中による事業ポートフォリオの再構築と抜本的な生産革新や開発品の早期収益化に取り組んでおります。『環境・社会課題解決型事業への転換』においては、「循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大」と「カーボンニュートラル実現への挑戦」を掲げ、SKG-5R(※)活動推進の一層の強化に取り組んでおり、その中で、大阪・関西万博施設整備事業に、独自に開発した技術により使用済み発泡スチロールを回収・再生した原料を活用した「エスレンブロックRNW」が採用されました。さらに、『経営基盤の強化』においては、人材に関する経営重要課題(マテリアリティ)における取り組みとして「イクボス企業同盟」に加盟するなど、社員一人ひとりがそれぞれの個性を活かして、いきいきと働くことができる職場環境づくりを強化しております。

売上面においては、ヒューマンライフ分野では、需要が減少するなか、環境貢献製品の拡大に努め、インダストリー分野では、各領域での回復需要の取り込みを進めて参りました。一方、利益面においては、エネルギー価格高騰に対して原価低減や固定費の削減、そして販売価格への転嫁など収益改善に取り組ましました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は649億9千6百万円(前年同期比の6.7%の増加)、営業利益は3億3千8百万円(前年同四半期は3億1千2百万円の損失)、経常利益は11億6千8百万円(前年同四半期は7千3百万円の利益)、さらに法人税等を加・減算し、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億5千9百万円(前年同四半期は3億4千5百万円の損失)となりました。

※「SKG-5R」は、SKGは積水化成成品グループ、「5R」は、Reduce、Reuse、Recycle、Replace、Re-createを指します。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<ヒューマンライフ分野>

ヒューマンライフ分野の売上高は245億3千8百万円(前年同期比4.3%の減少)、セグメント利益は9億3千3百万円(前年同期比39.7%の増加)となりました。

食領域においては、食品容器用途は食材価格の値上げの影響も受けましたが、内中食関連向けの需要は堅調に推移しました。農産用途は生育不良や天候などの影響もあり出荷が伸びず、水産用途も漁獲量の減少傾向が継続し低調に推移しました。売上高は価格改定による増加はありましたが、全体的には前年を下回る結果となりました。

住環境・エネルギー領域においては、屋上緑化関係での物件獲得は進みましたが、建材用途・土木用途は工事物件の進捗遅れなどがあり低調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)の売上数量は、納豆容器用途は堅調に推移しましたが、スーパーのトレー用途などの低調、即席麺用途の市場動向による影響もあり、全体では前年を下回りました。また、非発泡容器用途からの軽量化に向けた新発泡シートの開発を進めております。「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)の売上数量は、クッション用ビーズなどのライフグッズ用途の出荷が減少し、水産分野も低調となったことで、全体では前年より減少しました。

利益面では、原価低減や固定費削減、販売価格への転嫁、また製品移管運賃の低減などを図り、増益となりました。

<インダストリー分野>

インダストリー分野の売上高は404億5千7百万円（前年同期比14.7%の増加）、セグメント利益は10億4千9百万円（前年同四半期は3億4千2百万円の損失）となりました。

モビリティ領域における、「ピオセラン」（ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体）の販売は、自動車部材用途では、上期前半は一部自動車メーカーで部品不足の影響が残ったものの、自動車生産台数の回復を背景に好調に推移しました。部品梱包材用途では、前年度大きく伸長した電動部品梱包用途での需要が一巡し、売上は前年を下回りましたが、上期後半には新規案件の獲得も進み、全体では好調に推移しました。また、トラック、バス向けのFRP（繊維強化プラスチック）部材ならびに関連資材などで新たな需要を取り込み、好調に推移しました。欧州のProseatグループでは、欧州自動車市場は緩やかに回復する中、生産量は増加しております。そのような中で、エネルギー価格、人件費の高騰に対し、生産性改善、固定費削減や自動車メーカーへの価格転嫁を進めておりますが、赤字が継続しております。

エレクトロニクス領域においては、「テクポリマー」（有機微粒子ポリマー）の液晶パネル等の光拡散用途が、液晶パネルメーカーの在庫調整の解消が進んだことで、需要は回復しました。パネル搬送資材・梱包材用途での「ピオセラン」は、台湾での需要は回復、好調に推移しましたが、中国では国内消費の低迷により需要回復が遅れ、前年並みとなりました。

医療・健康領域においては、「エラストイル」（熱可塑性エラストマー発泡体）は、トレーニングシューズ用のミッドソール関連が、新モデルの立上げに遅れが生じたため低調となりました。「テクノゲル（ST-ge1）」（機能性高分子ゲル）は、検診需要の回復に伴い、対極板用途などで堅調に推移しましたが、中国向けの売上が減少しました。

利益面では、エレクトロニクス領域での需要回復、モビリティ領域での自動車生産台数の回復傾向の中、生産性改善、固定費削減、価格転嫁等に努めた結果、黒字化することができました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,472億8千万円（前連結会計年度末比21億5百万円の増加）となりました。資産の部では、受取手形、売掛金及び契約資産などの増加などにより流動資産が33億6千1百万円増加しました。また投資有価証券評価額の減少などにより固定資産は12億5千5百万円減少しました。

負債の部では、短期借入金などが増加し、流動負債は54億4千8百万円増加しました。一方、長期借入金の減少などにより、固定負債は14億4千7百万円減少しました。純資産はその他有価証券評価差額金などの減少により18億9千5百万円減少し、565億6千8百万円となりました。この結果、自己資本比率は37.9%となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が増加したことなどにより前年同期に比べ8億9千8百万円増加し、12億5千1百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に計上があった投資有価証券の売却による収入の減少などにより、前年同期に比べ8億8千1百万円支出が増加し、15億4千1百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金による収入の減少などにより前年同期に比べ14億2千5百万円減少し、12億9千8百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて、14億5千7百万円減少し、96億1千5百万円となりました。

(3) 中間配当に関する説明

配当につきましては、従来から株主への利益還元を経営重要課題として位置付けております。依然として厳しい状況が続いておりますが、配当の安定性を重視し、期初公表通り1株当たり3円の配当といたします。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期通期連結業績予想は、2023年10月27日公表数値からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,080	9,622
受取手形、売掛金及び契約資産	28,388	31,742
電子記録債権	7,930	8,735
商品及び製品	9,253	9,030
仕掛品	1,909	2,802
原材料及び貯蔵品	5,127	5,050
その他	3,227	3,292
貸倒引当金	△42	△41
流動資産合計	66,874	70,235
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,804	14,551
機械装置及び運搬具(純額)	12,753	12,979
土地	21,492	21,605
その他(純額)	4,653	5,123
有形固定資産合計	53,702	54,259
無形固定資産		
その他	1,763	1,834
無形固定資産合計	1,763	1,834
投資その他の資産		
投資有価証券	14,041	12,201
退職給付に係る資産	6,936	7,005
その他	1,905	1,791
貸倒引当金	△47	△47
投資その他の資産合計	22,834	20,951
固定資産合計	78,301	77,045
資産合計	145,175	147,280

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,026	18,873
電子記録債務	8,263	7,834
短期借入金	13,026	15,434
未払法人税等	1,338	757
賞与引当金	1,010	1,016
役員賞与引当金	42	31
その他	7,388	9,597
流動負債合計	48,096	53,545
固定負債		
社債	7,000	7,000
長期借入金	18,094	16,789
退職給付に係る負債	3,728	3,874
製品補償引当金	82	67
その他	9,710	9,436
固定負債合計	38,614	37,167
負債合計	86,711	90,712
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,445	16,408
利益剰余金	16,602	16,655
自己株式	△1,382	△1,301
株主資本合計	48,199	48,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,440	6,163
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	562	△136
退職給付に係る調整累計額	41	23
その他の包括利益累計額合計	9,524	7,529
非支配株主持分	740	743
純資産合計	58,464	56,568
負債純資産合計	145,175	147,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	60,917	64,996
売上原価	49,441	51,906
売上総利益	11,475	13,090
販売費及び一般管理費	11,788	12,751
営業利益又は営業損失(△)	△312	338
営業外収益		
受取利息	9	31
受取配当金	204	174
為替差益	411	665
助成金収入	22	185
その他	98	275
営業外収益合計	746	1,332
営業外費用		
支払利息	225	369
固定資産除売却損	14	32
その他	121	99
営業外費用合計	360	501
経常利益	73	1,168
特別利益		
投資有価証券売却益	227	—
特別利益合計	227	—
税金等調整前四半期純利益	301	1,168
法人税等	644	704
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△343	464
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△345	459

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△343	464
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,110	△1,276
為替換算調整勘定	405	△699
退職給付に係る調整額	△46	△18
その他の包括利益合計	1,468	△1,994
四半期包括利益	1,125	△1,530
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,123	△1,534
非支配株主に係る四半期包括利益	2	4

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	301	1,168
減価償却費	2,800	2,826
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△24	△2
受取利息及び受取配当金	△213	△205
支払利息	225	369
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△63	4
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△11	△14
退職給付に係る資産負債の増減額	△106	22
投資有価証券売却損益 (△は益)	△227	—
固定資産除売却損益 (△は益)	12	29
助成金収入	△22	△185
売上債権の増減額 (△は増加)	△543	△3,334
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△872	1
仕入債務の増減額 (△は減少)	714	699
その他	△1,138	181
小計	828	1,560
利息及び配当金の受取額	213	206
利息の支払額	△214	△335
損害保険金の受取額	122	856
助成金の受取額	22	185
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△618	△1,223
営業活動によるキャッシュ・フロー	352	1,251
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,141	△1,409
有形固定資産の売却による収入	65	12
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	425	—
貸付けによる支出	△1	△6
貸付金の回収による収入	0	10
その他	△6	△146
投資活動によるキャッシュ・フロー	△660	△1,541
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	511	1,954
長期借入れによる収入	5,307	1,500
長期借入金の返済による支出	△4,904	△3,860
配当金の支払額	△316	△407
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△468	△482
財務活動によるキャッシュ・フロー	127	△1,298
現金及び現金同等物に係る換算差額	112	131
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△68	△1,457
現金及び現金同等物の期首残高	10,503	11,072
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,434	9,615

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	25,567	10,546	36,113	—	36,113
欧州	—	16,014	16,014	—	16,014
アジア	77	6,929	7,006	—	7,006
その他	—	1,783	1,783	—	1,783
顧客との契約から生じる収益	25,644	35,273	60,917	—	60,917
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	25,644	35,273	60,917	—	60,917
セグメント間の内部売上高 又は振替高	286	74	360	△360	—
計	25,930	35,347	61,278	△360	60,917
セグメント利益又は損失(△)	667	△342	325	△251	73

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△251百万円には、セグメント間取引消去△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△250百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、ST-Elevat、これら成形加工品など

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	24,515	12,520	37,036	—	37,036
欧州	—	19,778	19,778	—	19,778
アジア	22	5,931	5,954	—	5,954
その他	—	2,227	2,227	—	2,227
顧客との契約から生じる収益	24,538	40,457	64,996	—	64,996
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	24,538	40,457	64,996	—	64,996
セグメント間の内部売上高 又は振替高	306	57	364	△364	—
計	24,845	40,514	65,360	△364	64,996
セグメント利益	933	1,049	1,982	△813	1,168

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△813百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△814百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevat、これら成形加工品など